

全国学力・学習状況調査の結果報告について

4月に、3年生対象で実施されました全国学力・学習状況調査の結果の考察がまとまりましたのでご報告いたします。

<国語>

	本校平均（正答率%）	全国平均（正答率%）
国語 A（主として知識）	72	77
国語 B（主として活用）	65	72

●全国平均と比較すると、A問題が5ポイント、B問題が7ポイント、正答率が下回った。

1) A問題（主として知識）

- ・「話し言葉と書き言葉との違いを理解する」問題の正答率が、全国平均に比べ12ポイント以上低い。
- ・「漢字を書く（えんき、いとなむ）」問題では、正答率が全国平均に比べて15ポイント以上低く、無回答率も20ポイント以上と多くみられる。
- ・「漢字を読む（覚悟、鮮やか）」問題の正答率は、全国平均をわずかに上回っている。
- ・「文章の構成を工夫して分かりやすく書く」問題の正答率が、全国平均に比べ11ポイント低い。

2) B問題（主として活用）

- ・「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する」問題の正答率が、全国平均に比べ14ポイント以上低い。
- ◆基礎基本を大切にし、知識を定着させることが重要である。
- ◆話し言葉と書き言葉の違いを理解し、日頃から場面に応じて適切な表現ができるようにする。
- ◆文章の構成や展開に注意して読んだり書いたりできるように、授業の中で重点的に指導していきたい。

<数学>

	本校平均（正答率ポイント）	全国平均（正答率ポイント）
数学 A（主として知識）	55	65
数学 B（主として活用）	41	48

●全国平均と比較すると、A問題が10ポイント、B問題が7ポイント、正答率が下回った。

1) A問題（主として知識）

- ・平均正答率の低さから、基本的な知識の定着が不十分といえる。
- ・標準偏差が全国平均に比べ大きく、個人による知識の定着度の差が大きいことがうかがえる。
- ・選択問題に対する無答率が著しく高く、数学に対する苦手意識の高さ、諦め感の強さがうかがえる。
- ・正の数、負の数の計算の順序や連立方程式の解き方、関数の問題等の基本的な計算に対する知識が全国平均に対し20ポイント前後低い。
- ・図形の問題は4問中3問で全国平均を10ポイント以上下回っている。特に空間図形と平面図形を関連付けて考える問題の正答率の低さから、図形の特徴を読み取る力、平面図形から空間図形をイメージする力が身につけていないことがうかがえる。
- ・授業の中で定着させられるよう、平易な問題の繰り返し練習や既習の知識と関連付けた説明などを心掛ける必要がある。
- ・机間指導をこまめに行い、生徒のつまづきに早く気づき、対応できるようにする。

2) B問題（主として活用）

- ・平均正答率が低く、標準偏差が全国平均より小さくなっていることから、全体的に「活用」する力が弱いことがうかがえる。
- ・四角形が一回、回転移動する様子を説明する記述問題では、正答率は17.7ポイントと低いが、全国平均（14.0ポイント）を上回った。
- ・記述問題に対する無答率が高く、与えられた条件を的確に読み取り、数学的な表現を用いて説明する力が定着していない。
- ◆全般的に、「知識」の定着がなされていない状況にあることが、「活用」する力が伸びにくい状況につながっているように思える。
- ◆小学校での学習内容が十分に身につけているとは言えない状況で、新出の学習内容を理解するための下地が育っていないことを踏まえた授業展開を考える必要がある。その都度復習し改めて定着を図る必要がある。
- ◆基礎・基本を大切にし、日常における数学の活用場面の設定機会を多く設けた上で、知識の底上げができるよう指導する必要がある。授業に取り組む姿勢は非常によい状況なので活用問題（特に文章題）にも取り組めるよう、思考力を養いたい。

〈生活・学習意識調査〉

1. 学習・生活面について

- 授業の受け方として授業の最初に示される学習の目標（めあて・ねらい）をしっかりとらえて臨んでいる生徒が9割以上おり、授業の最後に学習を振り返る活動ができる生徒の割合も7割を超えた。いずれも全国平均を上回っている。
- 放課後の過ごし方については、4月の回答なので、部活動の割合が8割近くあるが、次に多いのは、テレビやビデオ等を観たり、ゲームをしたり、インターネットをしている生徒で7割弱いる。家で勉強や読書をしている生徒は4割、家以外で勉強をしている割合は4割強でいずれも全国平均とほぼ変わらない。家族と過ごしたり、友達と遊ぶ割合は、5ポイント以上、全国平均より上回っている。
- 普段(月～金曜日)の放課後の勉強時間は「4時間以上する」生徒も1割いるが、「全くしていない」割合を含め「1時間以下」の生徒が4割近くいる。土日の関しては2割の生徒が全くしていなかった。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」生徒は2割弱と全国平均とあまり変わらないが、「全くしていない」生徒の割合も2割弱あり、全国平均を上回っている。宿題は全国的には9割の生徒が家庭で行っているが本校では8割に留まっている。家での予習・復習をする割合は全国平均と変わらないが「全くしていない」割合はどちらもやや高い。
- 普段の生活でテレビ・ビデオを2時間以上観る割合が半数、ゲームに関しては1割強の生徒が全くしないが、半数近くの生徒は2時間以上している。スマホ・携帯は9割の生徒がもっており、2時間以上、通話やメール、インターネットをしている。
- 読書の時間に関しては、「毎日1時間以上する」生徒は1割いるが、「全く読まない」と答えた生徒は4割を超えている。全国平均よりも8ポイント高い。
- 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしている生徒が75%近くおり、全国平均と変わらない。
- 携帯電話やスマホの使い方について家での約束を半数以上の生徒が守っており、全国平均よりやや高い。約束のない家庭の割合は2割程度だが、これは全国的にも同様である。
- 「地域の行事に積極的に参加している」と回答している生徒の割合は45%で全国平均を上回る。また、地域でのボランティア活動への参加は63%で全国平均を13ポイント上回り、参加しない割合は8ポイント低い。

2. 自己有用感・肯定感、自分づくり教育について

- ものごとを最後までやり遂げた達成感を感じたことがある生徒は95%いるが、難しいことでもチャレンジしていきたいと思う生徒は65%と全国平均を下回る。自分には良いところがあると回答した生徒は62%で全国平均より8ポイント下回る。
- 学級やグループの中で、自分たちで課題を見つけ、自ら考え、取り組んだと回答した割合は60%ほどで10ポイント以上、全国平均より低い。
- 友人の前で自分の考えや意見を発表することが得意な生徒が6割以上おり、全国平均より大幅に上回っている。
- 「学校で友達に会うのが楽しいか」の回答には97%の生徒が肯定的な答えをしており、「友達との約束を守ることが大事だ」と考えている生徒はほぼ100%である。
- 「困っている人がいるときに進んで助けられるか」という設問に対しては、約25%の生徒が否定的な回答をしている。同時に「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問に対して、約14%の生徒がそう思わないと回答している。

〈学校としての今後の取組について〉

◆学習面・生活面について

学習面において、日常の授業態度は、整然とそして真面目に取り組んでいます。しかし、国語、数学の結果はいずれも全国平均を下回る結果となりました。今回、家庭での過ごし方を分析していくと、学校以外での学習、つまりは家庭学習の定着がなかなか図られていないことが明らかになりました。宿題も、学校で済ましてしまい、教科の予習・復習に至ってはほとんどなされていませんでした。解決には、教員が授業での指導法を向上させ、学びの原点である「楽しい！わかった！もっと学びたい！」を進めていきたいと思えます。また、放課後の学習会も充実させて家庭学習の必要性を生徒自らが感じる授業作りを進めていきます。

◆自己肯定感・有用感、自分づくり教育について

自分に自信がないことに対しては、どうしても消極的になりがちなので、達成感や成功感がもてる場面を学習面はもとより行事等、学校生活のいろいろな場面で作っていきこうと思えます。学校の友人を大切にしている生徒がたくさんいるので、集団の中での、自分の役割を果たしていくことの大切さを感じさせ、集団の一員として、自分以外の人たちとの関わりの大事さを教えていきたいと思えます。いろいろな場面で「いつでも、どこでも、誰とでも」一所懸命に取り組む、頑張っていける生徒を育てていきたいと思えます。

そのためにも、家庭と学校、地域の大人が連絡、協力し合っていくことが更に求められていくと思えますのでよろしくお願ひします。